トピックス

1. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会ポスター奨励賞について

生 田 和 良

大阪大学微生物病研究所

第 60 回日本ウイルス学会学術集会は、11 年ぶりの大阪での開催（平成 24 年 11 月 13-15 日）に加え、60 回目という節目でもあるということで、何か記念になる企画を立てたいと考えていた。そこで、先端的なウイルス学分野の研究者だけでなく、ウイルス感染症分野の研究者にとっても有用な情報を提供するようなシンポジウムを取り上げることで、そしてポスターでの発表を奨励するために、優秀な発表者にはポスター奨励賞を贈ることを計画した。

第 60 回日本ウイルス学会学術集会の運営・プログラムは、運営委員長である松浦善治先生、プログラム委員長である塩田達雄先生、それにプログラム委員の各先生、特にコアメンバーの先生方と共に議論しながら運営した。この議論の中で、「例年思うことではあるが、オーラルとポスターの扱いに差がありすぎないか」ということが話題になった。幸い、開催場所として予定しているグランキューブ大阪（大阪国際会議場）では、かなり広いスペースを借りることができていた。時間の関係で、例年通り演題のほぼ半分はポスターに回す必要があったが、この広いスペースを使ってユニークな企画を、ということでこのポスター奨励賞の案が浮かんできた。

理事長の柳雄介先生に、この案についてご意見を伺ったところ、「今回の第 60 回日本ウイルス学会学術集会の試みとして行い、様子をみて、今後の学術集会での扱いについては、必要であれば理事会で検討する。」ということであった。そこで、次に何人のポスター発表者をどのように選び、いつ発表するかについての議論に移ったが、これがなかなか難しい問題であった。議論を重ねた結果、ポスターは 2 日間貼ったままにしておいて、奇数番と偶数番の発表日に分けて、11 月 13 日と 14 日の発表者の中からそれぞれ 5

名ずつ表彰することとした。まず、座長の先生に担当された演題から、「研究成果が分かりやすく表示されているか、印象付ける工夫が凝らされているか」などの点から最も優秀であった演題を 1 つ推薦いただき、選考委員会（プログラム委員のコアメンバーで構成）で 5 名に絞り、その日のうちに直ちに表彰することにした。このように、計 10 名の先生方を表彰したのであるが、初めての企画であったことで、表彰式についての案内が十分でなかったこともあって、残念ながら選ばれた若手の先生が残っておられず、止むをえず共同研究者の先生に代理で表彰状を受け取っていただいたケースもあった。

ポスター発表とポスター奨励賞の発表は、企業がスポンサーとして実施したミキサー会場と併設した形で行った。ウイルス学会には「杉浦奨励賞」があるが、これは人数も限られており、かなりハードルが高いものなので、今回のようなポスター奨励賞を今後も実施していくことは、ウイルス学分野に於いての活躍が期待される若手研究者に意欲を与える 1 つとなると思われる。

図 1. ポスター発表の様子。

図 2. ポスター奨励賞の表彰式（代理の先生への表彰）の様子。

連絡先

〒 565-0871

大阪府吹田市山田丘 3-1

大阪大学微生物病研究所

TEL: 06-6879-8308

FAX: 06-6879-8310

E-mail: ikuta@biken.osaka-u.ac.jp